

平成 14 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録

日時：平成 14 年 9 月 24 日（火）15：00～18：00

場所：ホテル札幌ガーデンパレス 孔雀の間

出席者：魚本委員長、睦好幹事長、岡村、小柳、長瀧の各顧問、井上、宇治、大内、島、中村の各幹事、鮎田、石橋、上田、牛島、梅原、大浦、大津、大塚、岡沢、河野、岸、國府、児島（代理：高木）、坂井、堺、佐藤（勉）、佐藤（良）、出頭、庄谷、鈴木（一）、鈴木（基）、竹田、武若、近田、辻、富田（代理：田中）、鳥居、名和、二羽、平澤、福手、前川、町田、松岡、松下、丸山、三浦（代理：岩城）、宮川、宮本（代理：河原）、山崎（淳）（代理：井戸）、山崎（竹）、山本、六郷、渡辺の各委員

配布資料：

- 3-0 平成 14 年度第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会合同会議議事次第
- 3-1-1 土木学会 14 年度コンクリート委員会名簿
- 3-1-2 土木学会 14 年度コンクリート委員会委員会一覧
- 3-2 平成 14 年度第 2 回常任委員会議事録（案）
- 3-3 土木学会コンクリート委員会・委員会活動状況
- 3-4 日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」改定案の確認について
- 3-5 JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）改正(案)について
- 3-6 平成 14 年度コンクリート委員会会計状況
- 3-7 提案書：新コンクリート標準示方書紹介のための海外雑誌への投稿
- 3-8 コンクリート委員会小委員会委員構成
- 3-9 fib 大阪大会での英文 CD-ROM 配布について
- 3-10 鉄筋の曲げ寸法表示に関する検討のお願い
- 3-11-1 耐震性能照査編(案)（2002 年 9 月 9 日版）
- 3-11-2 同 照会意見とその対応案
- 3-11-3 同 付属 CD-ROM について
- 3-11-4 同 講習会会告
- 3-12 吹き付けコンクリート指針作成の委託研究願(案)
- 3-13 「鋼繊維補強コンクリート設計施工マニュアル（トンネル編）」講習会開催の案内
- 3-14 第 1 回鉄筋継手国際会議パンフレット
- 3-15 ISO ドラフト DIS1920 に関する土木学会コンクリート委員会からの意見(案)

議事：

1．委員長挨拶

2．委員自己紹介

顧問、委員、事務局の自己紹介があった。

魚本委員長から、常任委員の樫山委員（日本道路公団）が角委員（日本道路公団）に交代したことが報告された。

3．平成 14 年度第 2 回常任委員会議事録（案）の確認

資料 3-2 の議事録（案）が承認された。

4. 報告事項

(1) コンクリート委員会・常任委員会活動報告

睦好幹事長より、資料 3-1-2 を用い、現在活動しているコンクリート委員会および小委員会が報告された。

(2) 第 1 種委員会活動報告

各委員会の委員長あるいは幹事長から資料 3-3 に基づいて活動報告が行われた。

魚本委員長より以下の報告があった。

・101 委員会（示方書改訂）：2002 年制定示方書講習会のスライドを J C I がコンクリート委員会に 50 万円（4 年間分）を寄付することで使用することを認めた。

・109 委員会（耐久性データベース）：3 種委員会から意見があった。

・110 委員会（微量成分溶出）：成果を示方書に次回改訂で取り入れたい。

・111 委員会（エポキシ鉄筋）：出版事業課からエポキシ樹脂塗装鉄筋指針の改訂依頼があり、改訂小委員会（111 委員会）を発足させた。予算は、出版からの仕掛 60 万円を含めて 200 万円が決まっている。なお、関連企業からコンクリート委員会に対して 500 万円の寄付（内 100 万円は事務局管理費）が予定されている。

町田委員より、エポキシ樹脂塗装鉄筋については I S O が品質規格を作っているのを参考にし、場合によっては I S O に意見を出して欲しい旨の意見があり、武若委員（小委員会委員長）からそのようにするとの発言があった。

辻委員より、規準関連小委員会の立場について、示方書規準編改訂部会が規準関連小委員会に移行するのではなく、規準関連小委員会が示方書改訂時に部会となるものであるとの確認意見があった。

(3) 第 2 種委員会活動報告

各委員会の委員長あるいは幹事長から資料 3-3 に基づいて活動報告が行われた。

207（国際関連小委員会）：山本委員より、規準類だけでなく、他のものにも対応して欲しいとの意見と ACI アニバーサリーの記念出版に対して日本発の技術紹介を提案して欲しいとの依頼があった。魚本委員長から、連続繊維、自己充填コンクリート、高性能減水剤などがあるのではないかとコメントがあった。

(4) 第 3 種委員会活動報告

睦好幹事長より、委員会に先立ち 3 種委員会の連絡会議を行い各小委員会から報告を受けたことが説明された後、資料 3-3 を用い、第 3 種委員会の活動報告がまとめて行われた。

(5) 平成 15 年度出版企画書・予算要求について

宇治幹事から出版企画書について、平成 15 年度は示方書英訳版を出版することとし、仕掛品としては例年通りの 1,200 万円を要求する予定であることが報告された。

示方書英訳版について、以下の報告があった。

・上田委員（小委員会委員長）：原稿を本年度中に仕上げ、出版を平成 15 年度にする予定である。

・睦好幹事長：CD-ROM については検討中である。

・町田委員：吉田賞委員会への報告書は CD-ROM でよい。

・辻委員：I S O 助成金への報告書は、製本は不要で、コピーが何部かあればよい。

(6) 継続教育実施連絡会への参加

睦好幹事長から、委員として竹田委員を推薦したとの報告がなされた。魚本委員長から、竹田委員に対して、必ず出席するようとの依頼があった。

(7) 示方書講習会の OHP 貸し出しについて

睦好幹事長から、教育目的であれば無料とし、営利目的等の他の場合に対しては個別に対応したいとの報告がなされた。

(8)技術シリーズの出版方法について

魚本委員長から、以下の報告がなされた。

- ・技術シリーズは3種委員会の独立採算制ではあるが、講習会の会場で参照できるように本で出版するようにする。
- ・絶版になった技術シリーズのコピーを取りやすくするために、CD-ROMを1枚作って図書館に納めるようにする。

(9)東電からの示方書複製許可申請

宇治幹事より、東京電力から設計ソフトを作って販売したいので、その中に示方書を使わせて欲しいという申請があり、出版委員会で検討をしているとの報告があった。魚本委員長から、コンクリート委員会としては許諾したいと思うが、トンネル委員会は拒否をしており、出版委員会が再検討するとの報告があった。

岡村顧問から、施工編はよく分からないが、設計編はどんどん使ってもらうのがよいとの意見があった。

(10)「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」改定案に対する意見書

睦好幹事長から資料3-4を提出したことが報告された。

(11)アル骨対策改正案に対する意見報告

河野委員から、資料3-5の4に基づいて、対策法a, b, cの順番等についての説明がなされた。

宮川委員から、前回の議事録では維持管理編改訂部会で検討を行うことになっていたがとの質問があり、魚本委員長から、部会での検討は今回は不要であり、次回改訂で取り入れるようにしたいとの返答がなされた。

(12)生コンJISの改正原案に対する意見報告

山本委員から、資料3-5に基づいて報告がなされた。

長瀧顧問から、エコセメントは7月にJIS化済みであること、スランプの問題は加水ではなく上限発注であるとのコメントがあった。

(13)予算執行状況

睦好幹事長から、資料3-6に基づいて報告がなされた。

魚本委員長から、年度末に残があれば示方書仕掛品を返納する、すなわち示方書が安くなるとの説明がなされた。

岡村顧問から、以下の意見があり、睦好幹事長が幹事会で検討すると返答した。

- ・技術者資格(コンクリート・鋼部門)の教材を作るのがコンクリート委員会の役目ではないか。
- ・技術者資格には、必要最小限のものとプロフェッショナルなものとの2段が必要である。
- ・の教材は、自学自習するための映像と音声とからなるCD-ROMのようなものが良く、作るにはベテランの先生方が適している。
- ・の教材は、示方書がらみで若い人たちが中心となるのがよい。

(14)新コンクリート標準示方書紹介のための海外雑誌への投稿

上田委員から、資料3-7に基づいて、解説的なものを編ごとに作成することなどの提案がなされた。

魚本委員長から、現在編集している英訳版をもとに各編のポイントを解説論文として、どこに、どのようにして投稿するかを検討して欲しいとの意見があり、睦好幹事長から各委員に対して、この件に関する意見や提案を幹事へ出して欲しいとの依頼がなされた。

(15)ISOドラフトDIS1920に関する意見

二羽委員(国際関連小委員会委員長)から、検討結果(資料3-15)を幹事会に提出するとの説明がなされた。顧問や委員から「スランプ試験」が問題であり、検討を要するとの意見があり、魚本委員長が最終判断することとした。

(16) ISO ドラフト (セメント) に関する対応

長瀧顧問から、セメントも報告事項(15)と同様な問題があるが、セメント協会に任せるので良いと思うとの提案があり、了承された。

5. 審議事項

(1) 小委員会の構成，委員の交代等

魚本委員長から、資料 3-8 に基づいて、新委員会の委員構成や委員の交代について説明がなされ、承認された。なお、新委員会の構成に対して希望や意見があれば、各委員長へ連絡することとした。

(2) 新設委員会の提案

魚本委員長から、資料 3-12 に基づいて、吹き付けコンクリートの指針作成に関する研究が委託される予定であるとの説明があり、委託者（オブザーバーの岡田氏）から土木学会に委託したい旨の説明がなされた。

魚本委員長から、正式に委託研究願が提出されれば受託したいとの提案があり、承認された。

(3) 英文化 CD-ROM

中村幹事から、資料 3-9 に基づいて、fib 大阪大会での英文 CD-ROM の配布について、海外からの参加者と国内の留学生に配りたいとの提案があり、承認された。

(4) 土木製図基準改定委員会からの依頼

梅原委員から、資料 3-10 に基づいて、規準関連委員会における中心寸法と外形寸法との併記でよいとの検討結果が説明された。それに対して、賛否両論の意見が出されたが、最終的には魚本委員長が判断することとした。

6. コンクリート標準示方書審議

(1) 耐震性能照査編

丸山委員（部会主査）から、資料 3-11-1（事前配布）と資料 3-11-2 により、照会意見とそれに対する対応が説明され、以下のようなことが決定された。

辻委員から、1 章総則で、この編は、「[構造性能照査編]の一部をなしており、」は適切でないとの意見があり、削除することとした。

魚本委員長から、照査例は示方書と別のものであることを明確にする必要があるとの意見があり、本全体の目次を入れ、さらに示方書、照査例、改訂資料のそれぞれの間に色紙と目次を入れることとした。

平澤委員から、p.30 の は逆数であるとの指摘ならびに骨格曲線の前提について説明する必要があるとの意見があり、検討することとした。

町田委員から、2 章について、「荷重」という章題は適切かどうか等の質問や意見があった。

意見があれば 9 月末までに丸山主査に提出し、検討を行い、最終的に町田委員の了解を取ることを前提として出版を承認した。

(2) 示方書耐震性能照査編講習会

島幹事から、資料 3-11-4 に基づいて、12 月 12 日に東京で、1 月 30 日に大阪で、311 委員会の報告会と合同で講習会を開催したいとの説明があり、承認された。魚本委員長から、委員に対して、多くの人に人に参加してもらえよう勧誘して欲しいとの依頼があった。

以上